

知的障害のある幼児にとっての「音楽・リズム遊び」の役割 —東京学芸大学附属特別支援学校幼稚部の授業実践の歴史の変遷より—

宮井 清香*

I. はじめに

知的障害児を対象とした特別支援学校のうち、幼稚部が設置されている学校は、2010（平成22）年度の『特別支援教育資料』（文部科学省，2011）によると、全国で11校ある。東京学芸大学附属特別支援学校（以下、本校）も、その11校に含まれ、幼稚部が設置されている。

筆者（2011）は、知的障害児を対象とした特別支援学校幼稚部の役割とその存在意義を追究することを目的として、本校に保存されている教育資料をもとに、本校幼稚部の沿革や教育内容について、35年間の歴史の変遷を整理して報告した。知的障害児を対象とした特別支援学校に設置されている幼稚部、とくに本校幼稚部の場合、そこでの教育は、幼児の生活体験や他者（教員や友だち）とのかかわりを広げたり、自己表現の芽生えを促したりすること、さらには家庭支援という側面が大事にされてきたことが明らかとなった。

本校幼稚部の指導形態については、これまで多くの先人たちによって計画・実践・評価が積み重ねられて現在に至っている。先人たちが築いてきた実践の足跡をたどることは、今後の幼稚部の教育について考えていく際の一資料としての価値があると考えられる。そこで、本稿では、本校幼稚部の指導形態の一つである課題遊び「音楽・リズム遊び」について、ねらいや指導内容という観点から、先人たちが積み重ねてきた「音楽・リズム遊び」の授業実践を整理する。

II. 幼児期の音楽表現をとらえる視点

1. 幼稚園教育要領にみる領域「音楽・リズム」から領域「表現」への変遷

本校幼稚部の開設以降（1975年～）の『幼稚園教育要領』に示されている「音楽・リズム」に関する内容の変遷について述べる。

1968年告示の『幼稚園教育要領』では、“幼児に営ませる必要のあるいろいろな経験や活動を取り上げて、それに含まれているねらいを抽出”し、「領域」を構成している。領域は、「健康」、「社会」、「自然」、「言語」、「音楽・リズム」、「絵画製作」の6領域に分け

* 東京学芸大学附属特別支援学校

られている。領域「音楽・リズム」は、“のびのびと歌ったり、楽器をひいたり、からだを動かしたりして表現の喜びを味わわせながら、幼児の表現意欲を満足させ、また、すぐれたいろいろな音楽に接する機会を多くもたせ、音楽に親しみ、音楽を聞くことに興味をもたせるなどによって、心を豊かにして生活にうるおいをもたせる”ことがねらいとしてまとめられている（文部省、1971）。

その後の1989（平成元）年、『幼稚園教育要領』は改訂され、発達の側面として整理された「領域」という考えによって内容が構成された。領域は、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の5つに分けられている。従来の「音楽・リズム」は、「表現」という領域に含まれた。「表現」は、まず子どもが表現することを楽しむこと、そして豊かな表現力や感受性を育てることを重視して確立された。

さらに、「表現」についての内容の取扱いにおいて、1999（平成11）年の改訂では、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めるということ、そして、2008（平成20）年の改訂では、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるようにすることという点が新たに加えられ、現行の『幼稚園教育要領』は編成されている。

2. 障害のある幼児にとっての音楽の役割

工藤（2002）は、障害のある子どもにとっての音楽が果たす役割について、“音や音楽は正に表現への欲求を満たしてくれる大切な手段であり、自己の存在を直接的に伝える表現そのものである”と指摘している。また、遠山（1984）は、音楽療法の視点から、“音や音楽は、生活内に生ずるでき事を理解したり、自己の内世界を表出するのに重要な情報源となる”と述べる。さらに、“音楽は、子どもたちの表現を引き出し、コミュニケーションへと発展させる上で非常に役立つものである”ということ、“音や音楽をきくこと、演奏すること、うたうこと、ダンスをすることなど様々な音楽活動は子どもたちの運動を呼び起こし、あるいはコントロールするのに不可欠のものである”ということを実例研究から導き出している。

以上の視点は、音楽がもつ役割についての見解を示すものである。音楽は、幼児の「表現」を引き出したり、豊かにしたりするうえで重要な手段となっているといえる。

Ⅲ. 東京学芸大学附属特別支援学校幼稚部での「音楽・リズム遊び」の歴史の変遷

1. 教育課程に位置づける前の「リズム遊び」（1975-1976年）

幼稚部が設置され、教育課程が大きく改訂される以前の1975-1976年度の「音楽・リズム遊び」に関する資料は残っていない。しかし、本校が幼稚部保護者を対象に年40回程度発行している『幼稚部だより』（1975-1976）に、「リズム遊び」という表現で活動内容が記されていた。「リズム遊び」に関する内容を引用し、表1に示す。表1に示す内容はすべて、教員による記述である。なお、学部だよりであるため、1975-1976年度の授業実践の

すべてではないことを指摘しておく。

表1 『幼稚部だより』に示された「リズム遊び」の内容 (1975-1976)

| 年度 | 発行日 | 「リズム遊び」に関する記載 |
|------|-------|--|
| 1975 | 5月17日 | ピアノに合わせてうたいました。(おはようございます, ぞうさん, お馬の親子, 電車, 電車ごっこもしました) |
| | 5月19日 | うたをうたいました。《おはようございます, 雨ふり, ぞうさん, 電車(電車ごっこをする), チューリップ(動作をする), むすんでひらいて(動作をする)》 |
| | 5月22日 | 歌をうたいました。《おはようございます, むすんでひらいて, チューリップ, 電車ごっこ》 |
| 1976 | 4月13日 | 結んでひらいて: 皆で一緒に。チューリップ: 一人ずつ前に出てうたう, 動作をする |
| | 4月15日 | 結んでひらいて, チューリップ, 教室の前の花壇に赤・黄・紫のチューリップが咲きはじめました。うたや動作あそびをした後でチューリップを見ました。 |
| | 4月19日 | 結んでひらいて, チューリップ, うたいました。 |
| | 4月23日 | 結んでひらいて, チューリップ, お人形さん |
| | 4月24日 | 握手でこんにちは, お人形さん: 好きな友達との接触をはかる, 結んでひらいて |
| | 4月30日 | チューリップ, 雨ふり(かさをさしてきたので, かさのひろげ方, つぼめ方, 歩き方などを雨ふりのうたに合わせてながらやりました。), インディアンがとおる: K先生が裸身になってインディアンに変装。子ども達は花輪の冠をかぶって子どもインディアンになって教室の中を走ったり, とんだり, 台の上に登ったりしました。かごめかごめ: 「後ろの正面誰?」という意味はまだ難しく, なき声で友達をあてるのも無理でしたが, 楽しくやりました。 |
| | 5月 4日 | 結んでひらいて, たぬきばやし, 雨ふり |
| | 5月 6日 | 結んでひらいて, 鯉のぼり |
| | 5月 7日 | 結んでひらいて, 蛙のうたに合わせて大太鼓を叩く |
| | 5月11日 | 結んでひらいて, 木琴合奏: いろいろな歌に合わせて木琴を叩きました。 |
| | 5月13日 | 蛙のうたに合わせて大太鼓を叩く |
| | 6月11日 | 鯛焼きくんのレコードにあわせて自由におどりました |
| | 6月14日 | リズム打ち(2拍子) ①ボン: 拍手, パン: 机上の蛙の絵, ②ボン: 拍手, パン: 自分のひざ, ③ボン: 拍手, パン: 向かい合っている友達のひざ |
| | 6月22日 | 結んでひらいてに合わせて, パー/グー/チョコキで机の上を叩く。 |
| | 6月25日 | 曲の速さに合わせて歩く, 走る。2拍子(ゆっくり): 腰を曲げておじいさん, 4拍子: 元気よく手を振ってお父さん, 8拍子: 小走りに赤ちゃん。鈴の音をきく: 床にねていて鈴が鳴ったら起きて走る。 |

| | |
|-------|--|
| 6月26日 | 雨ふりのうたに合わせて友達と向かい合いになって交互に相手の肩を叩く、ひざを叩く |
| 7月 3日 | 結んでひらいて |
| 7月12日 | 1学期にうたったうたを全部うたいました。むすんでひらいて、蝶々、蛙、雨ふり、鯉のぼり、握手でこんにちは、トントントンどなたです、運動会のうた |

2. 課題遊び「音楽・リズム遊び」の位置づけ

(1) 課題遊び「音楽・リズム遊び」の設定（1977年）

本校幼稚部は、1975（昭和50）年4月に設置された。幼稚部の概要、歴史的変遷については、宮井（2011）に詳しい。幼稚部の指導形態の一つに「課題遊び」がある。「課題遊び」は、1977（昭和52）年度に大きく改訂された教育課程に位置づけられ、“教師が課題をきめて、幼児の興味と関心に結びつくような遊びの形態で指導をする”ことを目的として設定された（東京学芸大学附属養護学校，1977）。1977年当時の「課題遊び」の具体的な内容を表2に示す。「音楽・リズム遊び」は、「教材単元学習へ発展する遊び（反復）」として位置づけられた。なお、遊びとしての他の指導形態には、「自由遊び」がある。「自由遊び」は、“幼児が自分の意志に従って行動する態度や、欲求、興味、関心の拡大化、及び遊びの技能の向上などを意図して恣意的な活動をさせようとするもの”として位置づけられた（東京学芸大学附属養護学校，1977）。

表2 「課題遊び」の内容（1977年）

| 生活単元学習へ発展する遊び（意識化） | | 教材単元学習へ発展させる遊び（反復） |
|--------------------|-------------|-------------------------|
| ・たのしい幼稚園 | ・元気に歩こう（遠足） | ・音楽・リズム遊び |
| ・動物園へ行こう | ・秋の運動会 | ・ぬたくり、ねん土、水どろなど造形的な遊び |
| ・春の運動会 | ・とり入れまつり | ・紙芝居、スライド、テレビ等で物語りを視聴する |
| ・プール | ・クリスマス子ども会 | ・つみ木遊び |
| ・散歩（牛や豚を見に） | ・もちつき | |
| ・飼育（蛙、ちょうちょ等） | ・学芸会 | |
| ・隣の幼稚園へ行こう | | |
| ・栗ひろい | ☆身体測定、避難訓練等 | |

「音楽・リズム遊び」は、『教育課程一年間指導計画（上）一幼・小学部』（東京学芸大学附属養護学校，1977）に、指導内容や学習活動が示されており、その設定理由は以下のとおりである。

子どもは音楽が大好きである。そこで音楽に親しませ、音楽的経験を豊かにし、音楽的感覚の発達を促すと共に、音楽的な経験を通して、聞く、声を出す、話す、身体を動かす、表現をする、などの能力を伸ばしたいと考える。尚音楽・リズムあそびは、行事を中心とした課題あそびの中で取り上げられているものの方が多い。

(2) 教育課程改訂（1994年）の中の「課題遊び」

1994（平成6）年度に、本校の教育課程は大きく改訂された。同時に幼稚部の「課題遊び」は、内容の見直しがおこなれた。「課題遊び」は「課題遊びⅠ」と「課題遊びⅡ」として再構成された。「課題遊びⅠ」は“季節的あるいは行事的な内容の題材に一定の期間集中して取り組み、幼児の興味・関心を広げ、将来、生活単元学習に発展する内容”で、「課題遊びⅡ」は“十分に取り組むことのできない、繰り返しの必要な内容”（東京学芸大学附属養護学校、1994）として整理された（表3）。

表3 「課題遊び」の内容（1994年）

| 課題遊びⅠ | | 課題遊びⅡ |
|---------|----------|-----------|
| ①楽しい幼稚園 | ⑦いも掘り | ①音楽・リズム遊び |
| ②運動会 | ⑧親子お楽しみ会 | ②体育的遊び |
| ③動物園遠足 | ⑨マラソンごっこ | ③造形的遊び |
| ④水プール遊び | ⑩学芸会 | |
| ⑤栗拾い | ⑪お別れ会 | |
| ⑥元気に歩こう | | |

(3) 新たな教育課程（2003年）の中の「課題遊び」の内容

2000（平成12）～2003（平成15）年度、本校では世界保健機関が2001年に発表した国際生活機能分類（ICF）で示された新しい障害観や教育的支援の視点を取り入れ、教育課程の編成を新たにおこなった。支援内容区分配列表が明示され、幼稚部の「課題遊び」は、「生活・学習・コミュニケーション支援」の内容として位置づけられ、表4のように整理された。この内容は、今日まで引き継がれている。

幼稚部の「音楽・リズム遊び」は、表4にもあるように、年間を通じて設定するという特設された遊びの場合と、他の遊びの内容と関連づけて設定する場合がある。また、後述する表6の指導内容（2011年）にある“歌を手がかりにして見通しをもち……”のように、生活の中の活動と歌を結びつけて活用している場合もある。

表4 「課題遊び」の内容 (2003年)

| 自然・季節・行事に関する内容 | 年間を通じて設定, または 左記の内容と関連づけて設定する内容 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい幼稚部 ・春のレクリエーション大会 ・動物園遠足 ・水・プール遊び ・歩こう | <ul style="list-style-type: none"> ・いもほり ・親子お楽しみ会 ・元気なからだ ・劇遊び ・お別れ会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽・リズム遊び ・造形遊び ・運動遊び |

3. 「音楽・リズム遊び」のねらい, および内容の変遷

本校の『教育課程一年間指導計画 (上) 一幼・小学部』(東京学芸大学附属養護学校, 1977), 『教育課程』(東京学芸大学附属養護学校, 1994), 2011年度現在の年間指導計画という3点の資料より, 「音楽・リズム遊び」のねらいや内容の変遷について示す(表5, 表6)。

表5 「音楽・リズム遊び」のねらいの変遷 (宮井, 2011)

| 年 | 1977年 | 1994年 | 2011年 |
|-----|--|---|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で音楽に親しみ, リズミカルな動きを楽しむことができる。 ・音楽・リズム遊びを通して, 表現活動, 仲間意識, 社会性, 身体能力などを高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で音楽に親しみ, 歌やリズミカルな動きを楽しむことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で音楽に親しみ, 歌やリズミカルな動きを楽しもうとする。 ・簡単な楽器にふれ, 音色などに親しむ。 |

表6 「音楽・リズム遊び」の主な指導内容の変遷 (宮井, 2011)

| 年 | 1977年 | 1994年 | 2011年 |
|------|---|---|--|
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノや先生の指示で着席することができる。 ・歌詞を覚えて先生や友達と元気に歌おうとする。 ・名前を呼ばれたことがわかり, 「はい」の返事ができ | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な音楽・リズムに親しみ, 活動を促したり行動を滑らかにする。 ・ピアノや歌に合わせて, 簡単な手遊びをする。 ・学習 (課題遊び) に関連 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく歌いながら, 歌を手がかりにして見通しを持ち, 活動に進んで取り組む。 ・ピアノや歌に合わせて簡単な手遊びをする。 ・課題遊びに関連した曲を |

| | | |
|--|--|---|
| <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノや歌に合わせ、リズムカルに手動作ができる。 ・「握ったお手てをどこにしようか。」の問がわかる。 ・自分の身体の各部の名称がわかり、言おうとする。 ・チューリップの花の咲いている様子に関心をもつ。 ・伸び伸びと歌おうとする。 ・でんでん虫の様子を見たり、歌を歌ったりして、でんでん虫に親しむ。 ・大太鼓に慣れ、リズムに合わせて叩こうとする。 ・知っている部分の歌詞や汽笛の音、ランララン……の所を楽しく元気に歌おうとする。 ・リズムに合わせて身体を動かそうとする。 ・動物の鳴き声がわかり鳴く。 ・早い、遅いなどのテンポに合わせて身体を動かそうとする。 ・歌や落ち葉に親しもうとする。 ・歌詞を覚えて歌おうとする。 ・いろいろな音楽に親しみ、好きな歌や軽快な音楽をききながら、楽しく活動しようとする。 | <p>した曲の歌詞を覚えて歌おうとしたり、リズムに合わせて身体を動かそうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事に関する歌や曲に触れ、自然に親しむことができる。 ・早い、遅い等のテンポやリズムに合わせて身体を動かそうとする。 ・楽器に触れ、叩いたりして楽しむ。 ・いろいろな音楽に親しみ、好きな歌や軽快な音楽を聞きながら楽しく活動しようとする。 | <p>歌おうとしたり、リズムに合わせて身体を動かそうとしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事に関する歌や曲に触れ、自然に親しむ。 ・音楽のリズムや速さ・強さの違いを感じて、身体を動かすことを楽しむ。 ・楽器に触れたり、叩いたりして楽しむ。 ・楽器を自由に鳴らして大人と簡単なやりとりをする。 ・校歌を知る。 |
|--|--|---|

4. 先人たちが記す「音楽・リズム遊び」の考え

－『指導実践資料集』（1990-1992）より－

(1) 「音楽・リズム遊び」の教育的意義

1989年度の幼稚部では、「音楽・リズム遊び」がさまざまな場面で活かされたり、関連づけられていたりすることに着目し、「音楽・リズム遊び」の指導計画の見直しをおこなった（東京学芸大学附属養護学校，1990）。「音楽・リズム遊び」を他の「課題遊び」や日常生活の指導と関連づけたり、「音楽・リズム遊び」としての指導形態の中で展開したりすることによって授業実践を重ね、「音楽・リズム遊び」の教育的意義を見出した。その内容は、8つの項目に分けて示されている。

- ①情緒の安定を図り、生活の活性化をする。
- ②豊かな感情を移入してやり、感情を陶冶していく。
- ③リズム感のある身体の動きがとれる。楽しんで身体を動かす。
- ④いろいろな音を聞き分ける。生活音の聞き分けにも般化していく。
- ⑤動作や発音の模倣をする。象徴遊びができるようになる。
- ⑥言葉を誘発する。正しい構音に気を付ける。
- ⑦簡単な楽器の初歩的な扱いに慣れる。
- ⑧初歩的な情操を養う。

上で述べた8つの項目それぞれについては、指導の際に適すると考えられる曲も整理されて示されており、指導の意図を明確にすることを目的とした研究もおこなわれていた。

(2) 指導内容の構成

『指導実践資料集』（東京学芸大学附属養護学校，1992）によると、幼稚部の「音楽・リズム遊び」の指導内容は、「身体表現」、「歌唱」、「器楽」、「鑑賞」の4つに分類されるようになった。それぞれの主なねらいは、以下のように述べられている。

- ・身体表現：手や身体全体を通して、リズムカルな動きを楽しむことができる。
- ・歌唱：ピアノや先生の歌に合わせて声や身ぶりで表現しようとする。
- ・器楽：楽器を鳴らしたり、手拍子を打つことに興味をもつ。
- ・鑑賞：日常生活の中で音楽に親しむ。

1991年度当時、幼稚部では、以上の4つの分類の中で特に「歌唱」の教材を重要視していた（東京学芸大学附属養護学校，1992）。教材の選択基準としては、次の7点である。

- ①季節感のあるもの・イメージがはっきりしているもの、
- ②行事に関係したり、行事を盛り上げたりするもの、
- ③生活の流れを活性化させるもの、
- ④古くから親しまれてきた童謡、

⑤テレビ等で親しまれたヒット曲，⑥身体表現ができるもの・拍打ちができるもの，⑦言語指導の準備となるような歌詞，と述べられている。また，幼稚部の指導全体の中で，手段または目的として，さまざまな「音楽・リズム遊び」に取り組んでいくという方向性が示された。

なお，今日の幼稚部では，上で示した指導内容の4分類の観点について，特に取り扱っていないことを指摘しておく。しかし，先人たちが整理した分類の観点は，今日の指導内容に反映されている部分があるのではないかと考える。

(3) 今後の課題について

『指導実践資料集』（東京学芸大学附属養護学校，1992）によると，当時の幼稚部教員は，以下のように，今後の課題をあげている。

- ①幼稚部の生活を豊かに活性化するには音楽教材をどのように活用したらよいか。
- ②幼児に音楽性を身につけさせ，音楽的情操の芽を育てていくような指導はどのようにしたらよいか。

IV. 特別支援学校幼稚部における「音楽・リズム遊び」の役割

—本校幼稚部の授業実践より—

本校幼稚部の「音楽・リズム遊び」は，これまでの実践の足跡を振り返ると，さまざまな指導観のもとに築かれてきた。幼稚部設置（1975年）から「音楽・リズム遊び」が「課題遊び」の一つとして位置づけられた1977年までの2年間は，季節や幼児の興味・関心と関連づけながら「音楽・リズム遊び」の授業が試みられてきたといえる。その2年間の実践の試みが土台となり，本校幼稚部の「音楽・リズム遊び」の授業実践は今日まで引き継がれている。また，1989年度から1991年度に，先人たちによって整理された「音楽・リズム遊び」の教育的意義の内容は，今日の授業実践を支えるものであることを理解し，その先人たちのねがいを読み取って今日の授業実践を考えていく必要があると考える。

先人たちのねがいを踏まえながら，本校幼稚部の「音楽・リズム遊び」について整理すると，そのねらいや指導内容に象徴される役割は以下の4点にまとめることができる。

①幼児の生活を支える。

音楽を手がかりの一つとして，活動への見通しをもたせたり，主体的に取り組めるようにしたりする。

②表現しようとする意欲を育む。

身体活動を広げたり，声や言葉での表出を促したりする。

③人やものとのかかわりを広げる。

音楽をとおして，身近な他者やものとのかかわり方を知るきっかけをつくる。

④他の遊びへのつながりをつくる。

「音楽・リズム遊び」をとおして味わった経験を他の遊びにつなげる。

本稿では、本校幼稚部の指導形態の一つである「音楽・リズム遊び」の役割について整理した。知的障害児を対象とした特別支援学校幼稚部での授業実践については、設置されている学校数が少ないことから、指導内容を整理することやその資料をもとに指導内容の追究をしていくことが今後も求められると考える。

文献

- 1) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2011）特別支援教育資料（平成22年度）．文部科学省．
- 2) 宮井清香（2011）知的障害児を対象とした特別支援学校幼稚部の歴史的変遷とその役割－東京学芸大学附属特別支援学校幼稚部の35年間に着目して－．山梨障害児教育学研究紀要，5，1-14．
- 3) 文部省（1971）幼稚園教育指導書・領域編 音楽・リズム．チャイルド本社．
- 4) 文部省（1968）幼稚園教育指導書 一般編．フレーベル館．
- 5) 文部省（1989）幼稚園教育指導書．文部省．
- 6) 文部省（1999）幼稚園教育要領解説．フレーベル館．
- 7) 文部科学省（2008）幼稚園教育要領解説．フレーベル館．
- 8) 工藤傑史（2002）障害児の音楽表現とは．日本音楽教育実践学会（編）障害児の音楽表現を育てる．音楽之友社，8-11．
- 9) 遠山文吉（1984）障害児にとって音（音楽）とは何か－音楽療法の原点を考える－．音楽之友社（編），障害児の成長と音楽．音楽之友社，48-64．
- 10) 東京学芸大学附属養護学校（1977）教育課程一年間指導計画（上）－幼・小学部．東京学芸大学附属養護学校，9-53．
- 11) 東京学芸大学附属養護学校（1994）教育課程．東京学芸大学附属養護学校，13-46．
- 12) 東京学芸大学附属養護学校（1975-1976）幼稚部だより．未刊行．
- 13) 東京学芸大学附属養護学校（1990）1989年度 指導実践資料集．東京学芸大学附属養護学校，5-24．
- 14) 東京学芸大学附属養護学校（1991）1990年度 指導実践資料集．東京学芸大学附属養護学校，7-26．
- 15) 東京学芸大学附属養護学校（1992）1991年度 指導実践資料集．東京学芸大学附属養護学校，7-30．